

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 7 0 号

【平成 26 年 11 月 4 日 (火) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. 米の需給・価格安定対策など国会議員、県知事、県議会議長に要請
2. JR東京駅前の商業施設で「みやぎ米に“ひとめぼれ”宮城の新米フェア」
3. 「みやぎまるごとフェスティバル2014」で、おいしい新米PR
4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第38次請求
5. 東京で「みやぎの農業復興フェア」

1. 米の需給・価格安定対策など国会議員、県知事、県議会議長に要請

J A 宮城中央会と県農協政治連盟は米の需給・価格安定対策などを求める要請を 10 月 3 日は県議会の安藤俊威議長に、8 日は地元選出国会議員に、9 日は村井嘉浩県知事に行いました。

安藤議長への要請は、中央会の石川壽一会長、三浦静也副会長、竹中智夫常務ら 6 人が、県議会を訪れました。安藤議長は「日本食が世界的に見直されており、米の消費拡大に一生懸命取り組みたい」と語りました。

国会議員要請は、中央会の石川会長、農政連の佐藤政悦幹事長ら 5 人が上京し、国会議員会館を回りました。自民党の伊藤信太郎、秋葉賢也、土井亨、熊谷大、山田俊男の各議員と、公明党の井上義久幹事長が本人対応し、その他の 5 議員は秘書が対応しました。伊藤議員は「宮城は米が基本。農家が将来展望を描ける対応策を講じていきたい」と語りました。

村井知事への要請は、中央会の石川会長、三浦副会長、竹中常務、農政連の佐藤幹事長らが県庁を訪れました。村井知事は「国のセーフティーネットで救えない所得の低い兼業農家も対象の利子補給対策などを県として前向きに検討したい」と述べました。

この要請を受けて、県は後日、緊急対策として、農家に無利子の短期資金や長期資金を融資する J A に対し、利子相当部分の一部を補助する金融支援を行うことを決めました。また、中央会、農林中金仙台支店、J A 全農みやぎ、J A 共済連宮城は、融資を行う J A を支援するため、新たに資金を創設し、利子補給を行う方向で調整を進めています。



村井知事に要請書を手渡す石川会長

2. JR東京駅前の商業施設で「みやぎ米に“ひとめぼれ”宮城の新米フェア」

JAグループ宮城は10月23日、JR東京駅前のJPタワーKITTE（きって）で、「みやぎ米に“ひとめぼれ”宮城の新米フェア」を開きました（共催：宮城米マーケティング推進機構）。環境保全米の新米「ひとめぼれ」を約3,000人にプレゼントした他、限定でおにぎりを振る舞い、宮城米のおいしさをアピールしました。

夫の高橋ジョージさんが栗原市出身のタレント・三船美佳さんのトークショーも行われました。三船さんは「お米をはじめ、宮城はとにかく食べ物がおいしくて、行くといつも3、4キロ太ってきます」と語り、笑顔で来場者におにぎりを配りました。

JA全農みやぎの菊地本部長は、トークショーの中で、宮城県内で進めている環境保全米づくりについて紹介しました。

KITTE館内では、飲食店8店が10月29日まで、宮城産「ひとめぼれ」を使ったメニューを提供する「宮城米ひとめぼれフェア」を行いました。



トークショーで環境保全米について説明する菊地本部長

3. 「みやぎまるごとフェスティバル2014」で、おいしい新米PR

県内の農林水産物や加工品などを一堂に集めた「みやぎまるごとフェスティバル2014」（同実行委員会主催）が10月18、19日に、仙台市役所前市民広場などで開かれました。

JA宮城中央会のブースでは、県農協青年連盟とJAみやぎ女性組織協議会の委員らが、炊き立ての環境保全米「ひとめぼれ」を、2日間で約1,000人に振る舞い、おいしい宮城米をPRしました。小学生など約120人には、おにぎり作りを体験してもらいました。

新米5キロなどが当たる、「安心・安全みやぎのお米」クイズラリーも実施。子どもから大人まで、行列ができるほどにぎわいました。名取岩沼、あさひな、仙台、みやぎ登米、栗っこ、みどりの、いしのまきの7JAもブースを出し、新鮮な野菜や果物、加工品などを販売しました。



新米を振る舞う女性協のメンバー

4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第38次請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は10月28日に総会を開き、東電への第38次請求を7,200万円とすることを決め、10月31日に請求しました。

内訳は、牧草の利用自粛等に係る損害が4,900万円、風評被害に伴う肉牛の損害が1,600万円など。10月27日現在、同協議会の請求総額は323億3,900万円、受領総額は248億7,400万円で、請求対比76.9%となっています。

5. 東京で「みやぎの農業復興フェア」

J A宮城中央会は10月9、10日の2日間、東京・大手町のJ Aビル農業・農村ギャラリーで「みやぎの農業復興フェア」を開きました。安心・安全な宮城産のおいしさと復興をアピールし、環境保全米の新米や仙台黒毛和牛、県産野菜などを販売しました。

新米は「ひとめぼれ」「ササニシキ」「つや姫」の3種類を、2キロ900円で、旬の梨は「あきづき」を1個150円で販売しました。

この他、キュウリやトマト、パプリカ、サラダホウレンソウなどを、100円～200円のお手頃価格で並び、購入者先着各日100人に環境保全米をプレゼントしました。



以上